

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900206		
法人名	(株)生活科学運営		
事業所名	グループホームつどいの家高根台		
所在地	千葉県船橋市高根台2丁目2番17号		
自己評価作成日	平成25年2月28日	評価結果市町村受理日	平成25年3月29日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市高根台2丁目2番17号		
訪問調査日	平成25年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は各ユニット毎にミーティングを開催し、ご入居者お一人お一人がよりその人らしい生活を送れるよう、意見交換・提案を活発に行い、出された提案は日々のケアに活かされている。毎月ユニット目標を決め、スタッフが同じ目標を持ってケアを行う事で、よりチームケア力が高まり、それぞれのユニットのカラーを活かしたケアに取り組むことができた。ご入居者との信頼関係もスタッフそれぞれの個性に合わせて着実に築きあげている。

また、ひやりはっと報告書の見直しを行い、より簡潔な書式に変更した事で報告件数が上がり、事故を未然に防ぐ情報共有ができた。他に災害時に向けて防災委員会を立ち上げ、緊急時・火災・地震・停電の状況別にマニュアルを作成し常に見直しを行っている。

法人の理念の基に、当事業所の理念「自分が住みたくなる家」を目指して、毎月職員が皆で話し合いより良いサービス提供に努めている。ユニット会議が最も中核となる会議で、利用者の心身の状況や思い意向を共有し、支援する内容を話し合っている。また、支援のモットーとなる目標を話し合い、目標(笑顔の支援、活動に参加、一緒に生活等)達成状況を毎日全職員が確認し反省する事でサービス向上に努めている。職員満足や働き甲斐を大切にして、意見の言い易い会議、勉強会での知識・技術向上、役割意識、目標の共有化等力を入れている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に地域密着型のサービスの意義をふまえた運営方針の説明を行っている。スタッフミーティング・ユニットミーティング・勉強会等、機会あるごとに日々のケアに繋がるよう意見を出し合っている。	理念を実践する目標を毎月ユニット毎で話し合い全職員で取り組んでいる。2月は「活動参加」「一緒に生活」等である。また、目標達成状況を毎日全職員が自己評価を記入し改善に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で地域の役員の方に意見をいただき、また施設側からも自治会の会議に参加し交流を行っている。自治会の行事に積極的に参加している。	毎月自治会の会議に参加し、また、福祉懇談会に出席し、専門性を活かした地域貢献に努めている。自治会の開催する焼き芋会、桜まつり等に参加し地域の方と交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買い物や散歩等の外出時にご近所の方と交流を図り認知症を理解してもらえよう働きかけている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々のご入居者の様子をできるだけ具体的に報告するようにしている。ご家族から頂いた意見・要望は迅速に対応するように努め、出席できなかったご家族や地域の方にも情報が伝わるように工夫している。会議の様子はスタッフミーティング等で報告しサービス向上に繋げている。	2ヶ月毎開催し、生活の様子や行事等の状況を写真を活用して具体的に紹介している。また、自治会からも地域の情報が寄せられている。家族参加は多い時は10人程度参加され、活発な意見が寄せられている。	外部評価の結果と目標を毎年報告しているため、今年度も報告し、目標の達成状況を継続的に報告し一層レベルの高いサービス提供を期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	調査等の通達は迅速に対応している。必要に応じて担当の方に報告や相談を行っている。	外部評価報告書、目標達成計画を報告し、事業所の取り組み方針や実績・課題等担当者に伝え、理解を得る様に努めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通して身体拘束禁止についての理解を深め、具体的な日頃のケアや声掛けの仕方などの見直しを行っている。身体拘束委員会の会議を定期的に行い全スタッフに発信している。	毎月勉強会を実施し、その中で身体拘束ゼロ、高齢者虐待防止、倫理等を取り上げ理解を深めている。また、不適切な言葉づかいを具体的に取り上げて話し合っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「千葉県高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修」に参加したスタッフより研修の内容を報告し、日頃のケアの見直しを行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修で職員が権利擁護に関する制度を学ぶ機会を設けている。今後さらに機会を増やし、活用に結びつけてく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に疑問点が残らないような説明をすることを努めている。またいつでも問合せし得るよう伝えている。改定の際は運営推進会議やご家族来訪時に報告し、理解・納得して頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では積極的に発言をして頂いている。どの意見もしっかり受け止め運営上見直しが必要と思われる意見に対してはできるだけ迅速に対応するよう努めている。	運営推進会議では生活の様子だけでなく、事故報告等事業所の運営内容の透明化を図った会議を行っている。家族意見が述べ易く、意見を運営に反映しサービス改善に努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティング・ユニットミーティング・カンファレンスノート等で意見・提案ができるよう機会を設けている。できるだけ全スタッフが意見を出せるようミーティングの日程調整を行い、提案された意見には迅速な対応を行うよう努めている。	毎月のユニット会議で話し合い、目標を決めて全職員の参画の基に運営されている。また、多くの委員会で一人一役担当し役割意識を持って仕事する様に努めている。毎月の勉強会で職員育成に熱心である。	職員満足、働き甲斐を考えた運営に努めている。さらには、会議の目的達成度の確認や勉強会ではコミュニケーション研修の重点実施など期待したい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの個々の状況に合わせて勤務できるよう組み立てをしている。今年度はユニットミーティングを定期的に行い、個人の負担が大きくならないようチームケアの強化に力を入れやりがいをもって働ける環境作りに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修には積極的に参加している。全スタッフに外部研修の情報を発信している。勉強会では外部から講師を招き知識を深めている。今後は更に職員一人一人の技術向上に向けての参加の機会の確保に努めたい。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修や管理者研修に参加し同業者との交流の機会を持つことができた。船橋市グループホーム連絡会からの情報も活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験入居前の情報は早めに全スタッフが共有し、信頼関係づくりに努めている。体験入居中はご本人の不安な事や要望している事を細かく記録し情報共有を行っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事不安に思われている事を具体的に把握し、個々のご家族に合わせた対応に努めている。ご入居者の様子を伝えながらお互いの情報共有に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在必要としている支援を客観的に把握し、必要に応じて他事業所等のサービスについての提案も行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入社時に「家」という意識を持ってケアにあたっている事を説明している。各ミーティングやカンファレンス等で話し合う時は、常にご入居者の役割・自立支援を念頭において進めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者の様子を随時報告・相談し、ご入居者とご家族がよりよい関係を築けるよう働きかけている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人方にいつでも気軽に来訪して頂けるよう、来訪しやすい雰囲気作りに努めている。	家族が来訪し易い明るいオープンな雰囲気である。また、職員が利用者との関係を深め信頼頂ける様、利用者の思いを深く理解できる様に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中で、時にはぶつかりながらも共に生活している事を感じられるよう、支援を行っている。ユニットを越えての交流も常に行いよりよい関わり合いが持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	写真など施設で過ごして頂いた記録をご家族に渡し、何かあればいつでも相談していただけるよう努め対応を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニットミーティングでご入居者ひとりひとりのケア振り返り、日常のケアの見直しをしている。	本人の要望を事前アンケートで考察してから、ユニットミーティングで提案し、具体的にケア内容を決めている。家族アンケートにも、真摯に受け止めて即応してくれると評価が高かった。	勉強会や事例検討で行なっているセンター方式を利用者全体へ広げていき、本人の情報を職員と家族がより一層、共通理解していく事を期待したい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居者おひとりおひとりの生活歴やサービスの経過について、入社時に説明し情報共有している。個々の生活習慣を大切にケアを行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各ご入居者の申し送り表にて心身の変化や対応について把握に努めている。ユニットミーティングでご入居者個々の力の引き出し方について意見を出し合い日々のケアに繋げている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットミーティングでご入居者にとってのより良い生活について話し合い、ご家族に定期的に現状報告をし情報の共有に努めている。医師やPTなどからも意見をもらい介護計画を作成している。	本人の意思や心情を率直にケアプランに取り入れている。ユニットミーティングで利用者ごとの課題を話し合い、本人のできる事を目標にしている。家族との会議も感謝の声があった。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の小さな変化や、行った工夫の結果、またご家族からの伝言まで、各ご入居者の申し送り内容表に記録し、全スタッフで情報共有できている。ユニットミーティングで総括し介護計画に繋げている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	傾聴ボランティア・訪問マッサージ・PTによるリハビリ・書道や軽体操などのカルチャー教室など施設内で行われる様々なサービスを個々に合わせて取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の役員の方々・地域包括担当の方がほぼ毎回運営推進会議に参加し情報を発信して下さっている。自治会の会議に施設からハウス長が毎回参加し連携体制の強化に努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師へ、変化に応じてご本人・ご家族の要望を伝えるなど調整に努めている。専門医への受診も状況に応じて進めている。	医師や薬剤師の往診時は管理者が同席し、要望や日頃の様子を伝えている。受診内容は家族へ電話連絡している。専門医への受診時は家族へ連絡調整して、必要に応じて同行もしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	8月までは24時間看護師と連絡が取れる体制になっていたが9月からは看護師不在となっている。管理者が医師へ変化の報告を行い指示を受けケアを行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院へ向けてのカンファレンスの開催を医療機関に働きかけ対応している。退院前情報をスタッフで共有している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「要望書」「重度化した場合の対応指針」の書類に基づきご家族と話し合い確認を行っている。ご入居者の状態に変化がみられた時に医師も交えてご家族と今後について話し合いを行っている。	看取りは医療行為がないケースに対応している。入院の場合は、ケアマネジャーが病院に情報提供して、管理者や家族と共に面談の場に同席している。延命治療については、家族や関係者間と話し合いを行なっている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変症状に対する職員の対応の仕方を勉強会で確認した。マニュアルの見直しも随時行い、シミュレーション研修を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は年2回の避難訓練を実施し、訓練時間をスタッフには周知せず行った。また来年度は、限られた人員数での夜間を想定した避難訓練や、エレベーターを使用せずに訓練をするなどの、具体的なところで力を入れるように年間計画に組み込んでいく予定。	年2回、同館内の施設と合同で消防署指導下の避難訓練をしている。今年は夜間2人体制訓練と停電時想定訓練を計画している。館内にはスプリンクラーが設置してある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時のオリエンテーションにて、話している。また今年度は、勉強会の時間を利用して、ハウス長から一人ひとりの尊厳とプライバシーの確保について、スタッフに話す時間を設けた。	職員には、丁寧な声かけを意識するように教育している。勉強会では、不適切な対応や権利侵害等がないか職員同士で振り返り、気づきの力を高め合っている。家族からも対応が良いと誉めてあった。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者と一対一で話をする時間を設け、ご本人の思いや希望を出来る限り表して頂いている。また聞きとった希望に対しては、ケアカンファレンス等で話し合い対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の、食事・アクティブ・入浴等、安全面を考慮した上で、入居者から聞き取りをして対応している。昨年度同様、自己表現できない方については、ユニットミーティングやケアカンファレンスの場を使って、スタッフ間で話し合い対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品をしたいと仰る女性入居者には、調剤薬局から入居者の身体に適した化粧品を購入している。また新しい洋服を購入したいと仰る方がいれば、ご家族と一緒に買い物に出かけて頂くようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある食事やおやつ作りを計画し、入居者と一緒に食事準備を行っている。また、入居者の誕生日には、お赤飯を炊く等の工夫をしている。	利用者は食器洗いや野菜作りを一緒にして、持てる力を発揮している。普段の献立は希望に応じて決めており、おやつは季節ごとに計画を立てて、一緒に作っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週間個人記録での管理とあわせて、一日を通じて水分量や食事量が普段と違えば、朝晩の申し送りで報告し、スタッフ間で情報共有を行い支援している。また、月一回の体重測定で増減の著しい方は、主治医の指示をもらい対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の口腔ケアに加えて、昼食後の口腔ケアもして頂くよう、毎日声かけをして習慣づけている。毎食後の口腔ケアが困難な方は、週1回の訪問歯科のDr.にアドバイスを受け対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	週刊個人記録にてトイレ介助の必要な方の排泄記録は管理している。ケアカンファレンスで個々の排泄リズムを確認し合い、トイレ誘導のタイミング等を決めて、トイレでの排泄を心掛けている。	週間個人記録で排泄チェックをして、トイレ誘導のタイミングを配慮している。声かけの工夫やリハビリパンツの経過観察をして、自立支援や改善の取り組みを行なっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操時には、便秘予防体操を取り入れたり、排便コントロールがうまくいかない方には、毎日乳酸菌を飲んで頂いている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の湯船には入浴剤を使用し、ゆったりと入って頂けるような環境づくりを行っている。入浴のお好きな方は、ご家族と相談し、安全面を配慮した上で、毎日一人で入浴して頂いている。	利用者の希望によって、入浴時間や湯温、シャワーのみ等に対応している。重度化の場合は、リフト浴が利用できる。入浴拒否の場合は、誘導のタイミングを見計らって柔軟に支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間2時間おきの巡回を行い、転倒の多い方に対しては、1時間おきの巡回をして、安心して眠られるよう支援している。また、その日の気分や体調に合わせて、声かけし休息をとりいれている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	今年度は、調剤薬局による薬の基礎知識に関する勉強会を行い、全スタッフが薬について学ぶ機会を設けた。また、入居者が日々服用している薬についての情報は、一冊のファイルにとじ、全スタッフがすぐに目に入るところに保管している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	前年度同様カルチャースクールへの参加は継続しており、今年度は昨年よりも多くの方が参加している。ピアノ好きな方には、週1回のピアノレッスンをおこなっている。また、カラオケや踊りのボランティアさんに依頼をして、普段とは違った雰囲気味わって頂いている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は、正月に初詣で行ったり、近くの公園に桜を見に出かけたりと、入居者の希望に沿った外出ができるように支援している。	周辺の散歩や買物支援は、週3回行なって外出チェック表で確認している。敷地がゆったりしているので、空き地でイベントを催して地域との交流も図っている。外食に行く機会も保つよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人ひとりの希望に沿って欲しい物があれば一緒に買い物へ行き購入している。また、金銭の所持に関しては、ご家族と相談して必要であれば、ご本人に持って頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に住まわれている方や、中々来訪が難しいご家族に関しては、出来るだけ入居者とご家族が定期的な電話のやり取りが出来るように支援している。入居者に手紙が届いた場合は、ご本人の希望で返事を書いて頂いている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある作品や、日常の様子・イベント事の写真を掲示して、生活感を出している。また、共有スペースが不快や混乱を招かないように、全スタッフが目を配り、ユニットミーティングで話し合いの場を設けている。	共有空間は、花や野菜が育まれたデッキに面して明るい。職員は季節の掲示物入れ替えや緑化等を委員として、責任を持って行なっている。ユニットのカラーを大切に、快適な場に仕上げている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の長いソファを移動した事で、仲のいい入居者同士で隣り合わせで座り談話されたり、テレビをゆったりと鑑賞されている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の住まいとそれ程の違いがないよう、居室内の家具や配置は、ご家族と相談して設置している。	清潔でゆったりした居室には、エアコン、洗面台、クローゼットが配置されている。本人が作った品や親しんだ物が置かれ、落ち着いた暮らしが継続できるように支援している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	家具の配置に配慮し、入居者が安全に動いて頂けるような、環境づくりに努めている。		